せたふくだより

2017年12月発行
第7号

新年の一念発起で 世田谷福祉専門学校 「学費が無料」

十二月になり、今年も残すところ一ヶ月を切りました。早いものです。

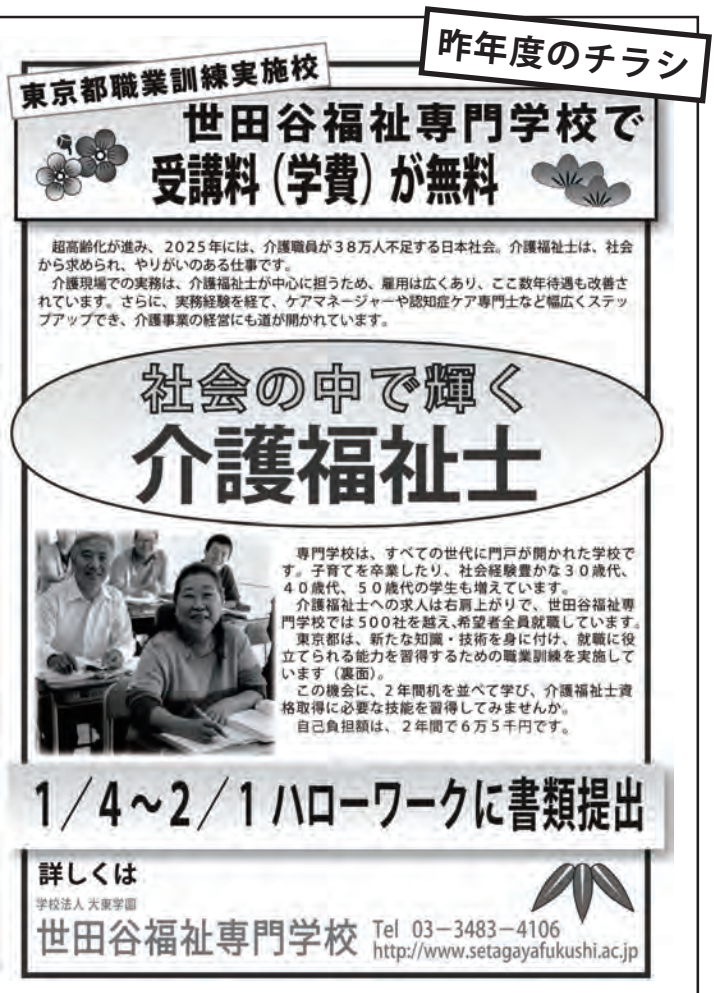
この一年、様々なことがありました。この時期になると「今年の10大ニュース」「今年の漢字」「流行語大賞」と、一年を締めくくる企画が目立ちます。今年を振り返った時、「ＡＩ（人工知能）」の台頭も挙げられるのではないでしょうか。ＡＩは急速に進歩しています。「囲碁や将棋」はもとより「お掃除ロボット」「自動車」そして「金融」「医療分野」と日進月歩のＡＩです。先月、みずほ銀行がＡＩを使った効率化で、従業員を削減する計画を発表し話題にもなりました。ＡＩを導入することで雇用問題が生まれています。何だか皮肉なものです。

「賃金の低い外国人が増えて本国の従業員が削減される。それで雇用問題が起こる」海の向こうでは当面の課題として壁までつくろうとしていますが、実際にはＡＩ化も大きな原因のひとつになっているかも知れません。将来は、外国人よりもＡＩの方が、はるかに雇用に関しては問題になってくるでしょう。もっとも、少子化と高齢化が同時に進む日本では、全体的に見れば今後も労働人口が減少するので、「削減」よりも「採用」の問題が深刻です。この地域でも、コンビニ、ファミレスなど多くの事業所で従業員の「募集」を行っています。介護の現場も同様です。

将来、急速にＡＩ化が進んでも「介護」は、人と人とのつながりが求められる職種ですので、必ず「人」は必要とされます。例えば、現在も活躍しているＡＩに「お掃除ロボット」があります。確かに部屋の掃除をするだけなら人員削減にもなるでしょう。きれいに掃除をしてくれます。しかし、利用者さんが捨てたお菓子の袋がゴミとして、あるいはクッキーの欠片がゴミとして収集された時、お掃除ロボットは他に何をするでしょう。ロボットは利用者さんがどんな食べ物を好みとしているか、どのくらいのカロリーを摂取したか、など考えるでしょうか。そして、次の食事での「好みのおかず」や「カロリー」などを考えるでしょうか。確かにこれらの物は「ゴミ」であり、「お掃除」の対象ですが、介護福祉士（人）は、その意味を考察し、利用者さんとのコミュニケーションも含めて生活の質の向上に役立てています。

このように、ＡＩ化が進んでも高齢化社会では「介護福祉士」は欠かせません。ですから、国も自治体も「介護人材確保」のために予算を使い、様々な助成金や補助金、制度を設けています。これまでに何回か紹介して来ましたが、その中で特筆すべきはハローワークの「訓練生」制度です。現役の高校生は除きますが、「子どもが大きくなったので働いてみよう」「定年後に何か働きたい」「パートから正社員に」「とにかく職を探している」等々、「転職」も含めて求職している方々を対象に、介護福祉士養成校の学費を「全額無料」とする制度です（裏面「卒業生から」を参照して下さい）。ただし、募集期間があり、毎年一月から一ヶ月弱の期間（昨年は一月四日～二月一日）になっています。本校を例にとれば二年間で二００万円以上が無料になります。ＡＩ化が進んでも「介護福祉士資格」は将来に活かせる資格です。短い期間ですが、来月、募集が始まりますので、新年の一念発起で、この機会に応募してみてはいかがでしょうか。不明な点は、お気軽にお問い合わせ下さい。

昨年度のチラシ



発行
学校法人大東学園
世田谷福祉専門学校
世田谷区船橋 7-19-17
TEL　03-3483-4106
FAX　03-3483-4107
HP（ホームページ）
http://www.setagayafukushi.ac.jp
Mail
info@setagayafukushi.ac.jp
発行人　金子広志

これまで発行した「せたふくだより」はホームページでご覧いただけます。

地域ふれあいコーナー

12月の行事

9日（土）希望小学校避難所運営訓練
15日（金）青少年地区委員会中学生研修会（船橋希望ヶ丘中）
17日（日）文化村「音楽クラブ」コンサート（成城ホール）

1月の行事

15日（月）船橋小安全ボランティア感謝の会（船橋小）
18日（木）第2回船橋地区区民防災会議（まちづくりセンター）
27日（土）地域交流懇談会（大東学園）

SWPTC
実務者研修
初任者研修
世田谷区の最大９割の
受講料補助制度を
活用してみませんか！
お問い合わせください。
学校法人 大東学園 世田谷福祉専門学校
〒156-0055 東京都世田谷区船橋7-19-17
TEL：03-3483-4106　FAX：03-3483-4107

昔懐かしい匂いに出会った。千歳船橋駅前から森繁通りに抜ける道の途中で、私の前を歩く男性から匂ってくる。年の頃は私と同じくらい。少し上かも知れない。もちろん加齢臭という言葉が適切かどうかわからないが、加齢臭などではなく「良い匂い」だ。「香り」と言った方が良いのかも知れない。化粧品の匂いであることは思い出せたが、それ以上懐かしい匂いの正体を思い出すことはできなかった。せたふくに向かう道の途中で化粧品を扱っている店を見つけ、男性化粧品のコーナーをのぞいてみた。端から端まで念入りに探す。コーナーの一番端に、思い当たる整髪料が見つかった。黒と銀のギンガムチェック、市松模様の整髪料。そうだ!!この匂いだ。思い出したことで気持ちはスッキリする。と、同時に当時の記憶が蘇ってきた。私が初めて出合った整髪料がこの整髪料だった。小学校の6年生か中学の1年生の頃だったと思う。当然、髪の毛も今とは違って沢山あった。友達の家に遊びに行った時に友達が化粧品を使って髪をセットしていた。ドライヤーを使って髪をセットする友達の姿は、何だか大人びていてカッコ良かった。「トニックを滴るほどつけて」という友達のアドバイスを受け、私は大人になったような気分で、この整髪料を使用した。その結果、滴る量が多く、長い間匂いを身につけることになる。だから、今でもこの匂いを忘れる事ができない。

匂いと言えば、前述したが加齢臭という言葉をよく聞く。加齢に伴い匂いが発生するそうだ。昔は加齢臭という言葉を聞いたことはなかったと思う。子どもだったから知らなかったのかも知れないが、少なくとも私が整髪料の匂いをかいでいた頃は、そんな言葉はなかったと思う。花粉に対して敏感になっている花粉症と同じで、匂いに対して敏感になっているのではないかとふと思った。それとも食生活の欧米化が影響しているのだろうか。今まで、いくつもの介護福祉施設を訪問したが、高齢者と向かい合う場面でも加齢臭という「匂い」に出会ったことはないような気がする。利用者さんに対して介護が万全なのか、加齢臭には年齢のピークがあるのか、そして、驚くほど昔とは違って設備や環境が改善した介護施設の進歩なのか、理由はわからない。いずれにしろ、私は加齢臭と友達になってしまったら、黒と銀のギンガムチェック、市松模様の整髪料のお世話になろうと、せたふくに向かう道を歩きながら思った。

地域の施設紹介
「ケアマネジャーオフィス ぽんてっくす」

ケアマネジャーオフィスぽんてっくす（船橋1-1-1）は、千歳船橋駅から30秒の上原ビルの1階にあるケアマネジャー事務所です。定休日の木曜日の店舗の活用として毎月1回第3又は4木曜日に「千歳船橋オレンジカフェちとふなCOCOA（以下カフェCOCOA）」と「フードドライブちとふなCOCOA（以下フードドライブCOCOA）」を開催しています。カフェCOCOAは人と人がつながる場・認知症を知りともに生きるためのヒントが見つかる場をめざしています。本格的エスプレッソなど飲み放題＋千歳虎屋さんのお菓子付きで入室料200円です。近隣の医師・薬剤師・ケアマネ・福祉用具相談員が交代で担当する各種相談タイムがありのんびりおしゃべりをしながら相談ができます。囲碁や、50年前の手打ちパチンコも楽しめます。参加者は小学生から90代の4～7人で手打ちパチンコを目当てに参加される女性たちもいらっしゃいます。フードドライブCOCOAはもったいないをありがとうにつなぐボランティア活動で4年前から実施しています。未開封・賞味期限1ヶ月以上・生鮮食料品でないものをお持ち頂き、集まった食品は、、社会福祉協議会ぷらっとホーム世田谷さんを通して食品の必要な方々にお届けしています。毎回、お米や素麺やパスタなど20～40kgの食品が集まり、お米を一度に70kgや30kgお持ちいただくこともあります。9月には区の若手職員の方々が研修に訪れました。定休日の店舗活用の広がりとして、カフェCOCOAで相談タイムを担当しているNPO・ACTせたがや居宅介護支援事業所のみなさんが、11月から毎月第2木曜日（13時～15時）に『カフェのある介護なんでも相談所ACTカフェ』を始めました。初回の11月9日は参加者が多く入りきれないほどでした。今後も定休日の店舗を活用して若者の居場所や八百屋カフェなどの誰でも気軽に集える場を作っていきたいと思います。若者の居場所や八百屋カフェなどの企画運営してみたい方は、ぜひご連絡よろしくお願いします。

【管理者　橋元晶子】

せたふく教員紹介

高島（たかしま）　良宏（よしひろ）

世田谷福祉専門学校と大東学園高等学校で手話指導を担当している、ろうネイティブの高島です。

私にとって一番Happyな瞬間は、学生や受講生たちが、手話で会話ができた喜びをかみしめている姿を目の当たりにしたときです。私は幼いときから音のない世界で過ごしてきたので、音には無縁ですが、「手話」があるからこそ現在の自分があると思っています。それと同時に、ろうであることにアイデンティティを持ち、ろう者であることをとても誇りに思っています。ろう者として生まれてきたことを、両親に感謝したいです。そして、兄弟にも支えられたこと、世界中の友達のおかげで視野が広まったことにも感謝しています。

手話は、目で聴く言語。私は子どものときから海が好きです。海の中では音は無意味なもので、声で話す必要もなく、それがろうの世界と同じ感じで、とても落ち着きます。

休日には、時間が許す限り犬と散歩したり、GYMで汗を流したりしています。

また、カフェテラスで珈琲やビールを飲みながら、ガヤガヤした都会の中でも音を気にせず、行き交う人々を眺めるのが高島流の過ごし方です。

皆さんも一度、音のない世界を覗いてみませんか？

卒業生から
第20期生　永美 淳子 さん

この春、20期生として卒業しました永美淳子と申します。

パート主婦だった私は、52歳になったとき「自分の中に積み重ねを実感できる仕事で、この先もずっと働きたい。」と考え、ハローワークの再就職支援を利用して、職業訓練生として入学しました。

学生生活は、学ぶことが楽しく、忙しくも充実した二年間でした。

現在は世田谷区経堂にある『まごころ訪問介護』に就職し、おもに重度訪問介護のヘルパーとして働いています。

入社してすぐに、ALS（筋萎縮性側索硬化症）の方の担当になり、喀痰吸引、胃ろう処置、体位交換など、医療的ケアの手順を覚えるのに必死でした。

また、重度訪問介護では、脊椎損傷の利用者さんが、ご自身で自立した生活を送るためには、留置カテーテル交換などの医療的支援が、欠かせないことを知り、驚きました。利用者さんの指示のもとに、毎回緊張しながら取り組んでいます。

ミスや失敗を経験し、手順の正確さは勿論ながら、学校で学んだ「なぜそうするのか」という根拠を自分の中で明確にしていることが、利用者さんと介護者の安全に大切なのだと痛感しています。

訪問介護の業務は多岐にわたり、医療的支援と料理などの家事を同時に支援していくので、まだ慣れない私には大変ですが、利用者さんご自身が、意志と責任で自分の生活を設計し管理していこうとする姿勢は、力強く、心を揺さぶられます。

車椅子に移乗し、整容を整え、楽しそうに出かける姿に安堵し、疲れ果て気難しい様子に戸惑う事もありますが、「生きる」ことを身体ごと理解していく介護という仕事を「面白いな」と思います。今、自分がそう思えることに、せたふくで学んだすべてがあり、ハローワークの支援制度につくづく感謝しています。微力ながらも、専門職として社会に少しづつ恩返ししていければと、考えています。

カイゴ ワンポイント！

このコーナーは、生活のなかで役に立つ介護に関する情報をご紹介していきます。前回は、「杖」についてご案内しましたが、今回は、その中で紹介した「白杖」を使用している目が見えない方への支援についてです。

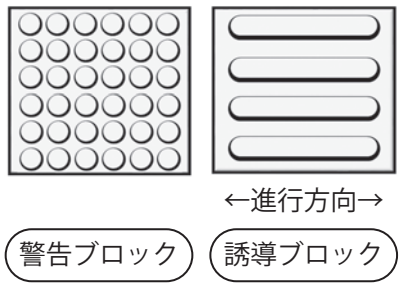
白杖

【目が見えない方への支援】

町で白杖を持っている方を見かけたことはありますか。目が見えない方が多く持っている杖、白杖は「安全性の確保」「情報の入手」「視覚障害者としてのシンボル」としての役割を果たしています。

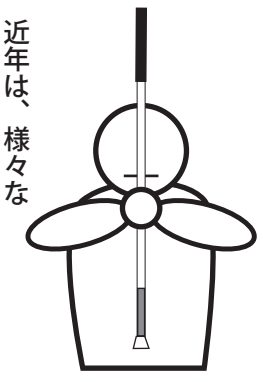
目が見えない方は、白杖で人や建物、段差などを確認し、安全を確認しながら歩いています。さらに、トントンと叩いて音を出すことにより、周囲に認識してもらうことや、反響音で周囲の状況を確認することもあります。

目が見えない方に対して点字ブロックというものがあります。



進行方向に向かって進み、注意すべき位置を示す点字（警告ブロック）の先にはホームの端や階段、横断歩道があります。

点字ブロックは駅のホームや、歩道などにあります。目が見えない方にとって点字ブロックはとても大切なものです。荷物や、自転車など置かないようにしましょう。

また、白杖を持つ方が、左の図の様に杖を上げていた場合は、助けを必要としているサインです。この様な方を見かけたら、ぜひ声を掛けてみて下さい。

近年は、様々な福祉機器により便利になってきていますが、声をかけあうことが一番の安心につながります。「設備があるから大丈夫」ではなく、スマートフォンを見るよりも、助けを必要としている方々を見るようにして下さい。